

山形県

発掘調査速報会

2016

期日：平成 29 年 2 月 26 日 (日)

13:00~16:15

会場：山形県生涯学習センター 遊学館



【主催】山形県教育委員会

【共催】山形市教育委員会 米沢市教育委員会 上山市教育委員会

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

平成28年度 山形県発掘調査速報会2016

主催 山形県教育委員会
共催 山形市教育委員会、米沢市教育委員会、上山市教育委員会
 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
日時 平成29年2月26日(日)13:00～
会場 山形県生涯学習センター 遊学館
 2階ギャラリー 受付 遺物・パネルの展示
 2階ホール 速報会発表会場

- 次第**
- 12:00 開場
 - 13:00 開会の挨拶
 - 13:05 平成28年度の県内の発掘調査の概要について
(山形県教育庁文化財・生涯学習課)
 - 13:15 報告① 史跡山形城跡(本丸・二ノ丸)
(山形市教育委員会)
 - 13:45 報告② 史跡羽州街道榑下宿金山越
(上山市教育委員会)
 - 14:05 報告③ 大南遺跡
(米沢市教育委員会)
 - 14:25 報告④ 馳上遺跡・元立北遺跡
(山形県埋蔵文化財センター)
 - 14:45 休憩・出土品の見学
 - 15:00 報告⑤ 壇山古窯跡群
(山形県埋蔵文化財センター)
 - 15:20 報告⑥ 八幡西遺跡
(山形県埋蔵文化財センター)
 - 15:40 報告⑦ 上竹野遺跡
(山形県埋蔵文化財センター)
 - 16:00 質疑応答
 - 16:15 閉会



平成28年度 報告遺跡一覧

遺跡名	調査回数	所在地	時代	調査面積	調査日程	起回事業
史跡山形城跡(本丸)		山形市	近世	2,100㎡	5/16～12/27	史跡山形城の整備事業
史跡山形城跡(二ノ丸)		山形市	近世	400㎡	5/30～10/25	霞城公園社会資本整備事業
史跡羽州街道榑下宿金山越	第2次	上山市	江戸	570㎡	8/22～11/7	史跡羽州街道榑下宿金山峠越調査事業 (金山峠越羽州街道遺構調査)
おのみかみ 大南遺跡		米沢市	縄文 古墳～近世	14,000㎡	4/22～12/9	置賜広域行政事務組合浅川最終処分場整備事業
はしがみ 馳上遺跡	第8次	米沢市	古墳～中世	13,489㎡	4/25～11/11	(仮称)道の駅よねざわ、主要地方道米沢高島線道路改築事業
もとだてきた 元立北遺跡		米沢市	古墳・平安	1,000㎡	4/25～7/13	同上
だんやまこようあつとぐん 壇山古窯跡群		川西町	奈良・平安	400㎡	5/9～7/7	町道虚空蔵山西線道路改良事業
やわたにし 八幡西遺跡		川西町	古代～近代	7,000㎡	5/16～12/16	一般国道113号梨郷道路事業
うわたけの 上竹野遺跡	第2次	大蔵村	縄文・弥生	1,469㎡	6/27～10/20	一般国道458号道路改良事業

表紙写真 左側上：史跡山形城跡(二ノ丸)、左側下：壇山古窯跡群
 中央上：上竹野遺跡、中央中：馳上遺跡
 右側上：八幡西遺跡、右側中：史跡羽州街道榑下宿金山越、右側下：大南遺跡

史跡山形城跡 本丸西堀跡・本丸御殿跡

—大改修以前の
最上氏の堀跡—

山形市

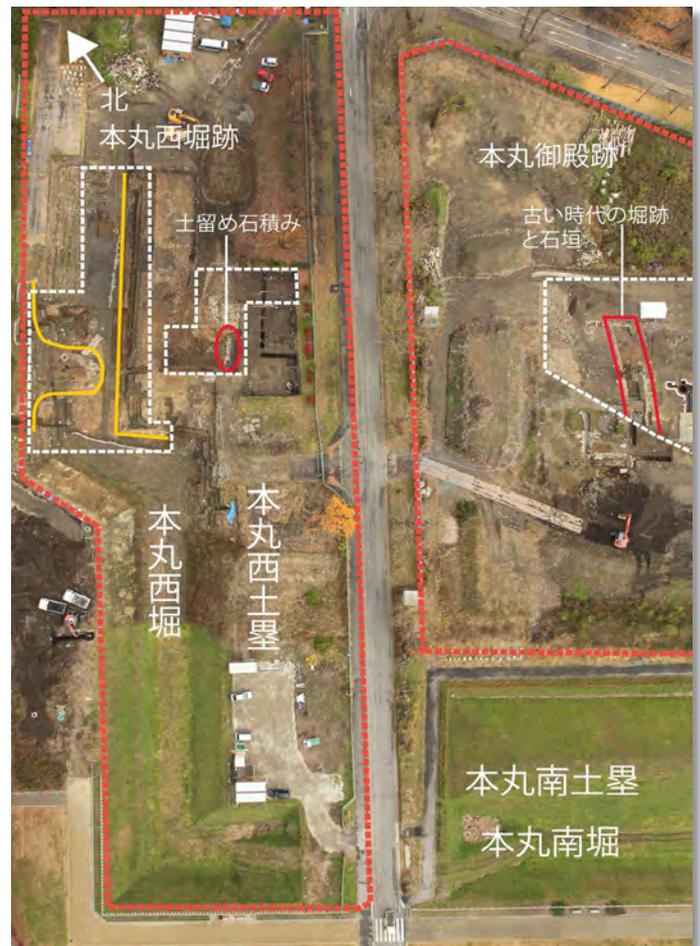
本丸西堀跡・本丸御殿跡ともに昨年度調査区を北側に拡張して行いました。

本丸西堀跡埋門^{うづみもん}周辺では、最上氏時代の盛土の斜面の約 2.5 m 下より石積遺構が検出されました。石積みは 2～3 段で、玉石を横長に積んだ土留め遺構と考えられます。よって、石積遺構の前面は最上氏時代の堀跡で、盛土は土塁と推定しています。

本丸御殿は、山形城の本丸にあった中心的な建物です。発掘調査では御殿に関する遺構は見つかりませんでした。古い時代の堀跡と、それに伴う石垣を発見しました。位置は、御殿跡のほぼ中央にあたり、堀幅約 4 m、深さ約 1.8 m あります。確認した範囲では総延長約 30 m に及びます。堀の東西両岸には石垣があり、高さは 1.5～1.8 m です。東側石垣は、長軸約 40～60 cm 程の玉石を主体に割石が混ざった石垣でした。割石には人工的な石割り痕跡はなく、自然に採れる角石を使ったようです。一方西側石垣は玉石のみで、直径約 80 cm のやや大きな石を使っています。両岸とも石積みには目地の通りを意識した様子がみられます。この堀の中には大量の瓦が捨てられており、火災にあい焼けた黒瓦や金箔瓦も含まれ、江戸初期の最上氏時代と推定されます。

この堀跡は最上氏時代のいずれの絵図にも示されておらず、より古い時代の山形城の遺構と考えられます。

(五十嵐貴久)



本丸西堀跡・本丸御殿跡の調査区



本丸西堀跡埋門周辺発見の最上氏時代の堀跡・土塁跡及び土留め石積遺構



本丸御殿跡発見の堀跡及び石垣 (写真は東側石垣) 奥は昨年度発見の最上氏時代井戸跡

山形城の二ノ丸土塁では、従来の園路をより利用しやすいように改修する事業に伴って、発掘調査を実施しております。今年度は、二ノ丸東大手門から北に延びる土塁が調査対象となりました。

調査により、^{うしとらやぐら}良櫓（北東隅の櫓）の櫓台となる石垣が検出されました。ここは、江戸時代の城絵図によると、二層の櫓が建造されていましたが、その土台となっていたものです。石垣の規模は、南北約 10.4 m、東西約 7.5 m で、西側に^{がんぎ}雁木と呼ばれる階段が設置されていました。二ノ丸櫓石垣の調査は今回で 3 例目ですが、建物を支える^{てんばいし}天端石（最上段の石材）まで残存していたのは初めてです。

石垣の築造年代は、その土台となる土塁が元和 8 年（1622）に入部した鳥居氏によるものなので、それと同時期であると考えられます。築造当初の石垣の高さは、最大で 2.5 m あったことがわかりました。ただし、櫓の改築・瓦の葺き替えが数回あったようで、そのたびに不要になった瓦を石垣の周囲に廃棄したうえで盛土整地を行っており、石垣築造から 200 数十年後の幕末には高さ 70cm 程度になっていました。幕末の地表面から、写真のように大量の

瓦が出土しています。これは、明治の廃城令にともない、解体された櫓から崩落した瓦が散乱したものであると考えられます。

山形城の城絵図には土塁の上に土塀が描かれていますが、今回の調査で、その礎石である石列を検出することができました。周囲から瓦が出土しましたので、この塀には瓦が葺かれていたと考えられます。瓦の重量を支えるために、このようなしっかりとした礎石が必要だったのでしょう。

（齋藤 仁）



秋元氏（1767～1845年）家紋鬼瓦



良櫓石垣 周囲には瓦が散乱している状況で検出されました。明治初頭の櫓解体に伴うものと思われます。



土塀礎石列 2列の石列で構成されます。幅は90cm前後です。

史跡

うしゅうかいどうならげしゆくかなやまごえ 羽州街道榎下宿金山越

—旧街道の
遺構を発掘する—

上山市

羽州街道は福島県北の桑折こおりで奥州街道から分かれて青森に至る街道で参勤交代に使われました。仙台領しちがしゆくの七ヶ宿を経て、金山峠かねやまから上山領かねやましゆくとなり、金山宿あいのしゆく（間宿）、榎下宿ならげしゆくを経て上山に通じています。明治16年に車道（現在の県道13号）ができた後も歩道として使われましたが、次第に廃れて、現在金山宿は無住となりました。平成9年に「近世における羽州街道の様相をよく残す貴重な地域」として国史跡に指定されました。そして地元有志による遊歩道の草刈や学校遠足が行われてきました。

平成26年7月9・10日の豪雨によって遊歩道が寸断されたため、上山市教育委員会は平成26・27年度の2か年事業で23箇所の災害復旧に取り組んできました。江戸時代の絵図や文書からは街道の幅も構造もわかりませんでしたが、大雨で路面が洗掘されて水路石組が、法面崩壊で石積が現れた箇所があります。

平成27年度に5箇所で発掘調査、平成28年度は全線にわたって街道遺構の確認調査を行い、峠の茶屋跡、馬頭塔付近の街道遺構、金山宿頭の湯殿山碑付近の街道跡などの記録、伝一里塚の再検討などを行いました。

(阿子島功・齋藤 誠)



溪岸侵食で現れた街道の路盤構造



弘化3年（1846）山田音羽子の描いた「お国替え絵巻」の金山峠の図（一部）には、峠の不動尊の階段、手水鉢（木樽）、茶屋、七曲り坂の様子が描かれています。



街道沿いの文政12（1830）年の馬頭塔（○印）と石積（時期不明）



峠の不動尊の手水鉢（慶應4（1867）年 江戸神田豊嶋町秋田屋が寄進した）と元文2（1737）年の銘がある円柱残欠（地藏尊の後）

大南遺跡は、米沢市と高畠町に跨る最上川の支流、天王川（梓川）右岸の自然堤防に立地します。平成28・29年度の2カ年で約28,000㎡の発掘調査を計画しており、今年度（第1次）は遺跡の東側を調査しました。

今年度の調査で特筆される成果は、主に西側調査区（Ⅱ区）で発見された中世から近世の遺構群です（写真：右上）。東西約60m、南北約110mの範囲に方形を基調とする堀が巡り、さらに内部を東西方向の堀で2つに区画しています。堀は上幅6～10m、深さ1.0～1.5mで、断面形は逆台形状（箱堀）です（写真：左）。この区画内に2,000基を超える柱穴群が存在し、多数の掘立柱建物があつたと考えられます。これらの遺構から、本遺跡は中世から近世にかけての館跡である可能性が高いと考えています。また、南側の区画では、この堀より古い中世期の区画溝があり、館跡がある時期に大きく拡大したとみられます。

この他、調査区の南側から、倉庫跡とみられる総柱建物を含む奈良・平安時代の掘立柱建物跡群も発見されています。

出土遺物は縄文、古墳から近世にかけてのものがあります。奈良・平安時代の土師器、須恵器が多く、河川跡から底部に「善」と墨

書された須恵器稜碗りょうわんや粘板岩製の石帯等せきたいが出土しています。中世期の出土遺物は国産・貿易陶磁器類、板碑いたび、石塔、木製品類、古銭等が出土しています。堀跡は、堆積土上層から18世紀以降の陶磁器類が多く出土するものの、堀底付近から出土した遺物はごくわずかです。堆積土や周辺の遺構から、内耳土鍋や13世紀代まで遡る鎬蓮弁文青磁碗等しのぎれんべんもん（写真：右下）が出土しており、館跡の成立時期を窺わせる遺物と考えています。

本遺跡は来年度も調査を継続しますので、今後より詳細な位置付けを行っていきます。

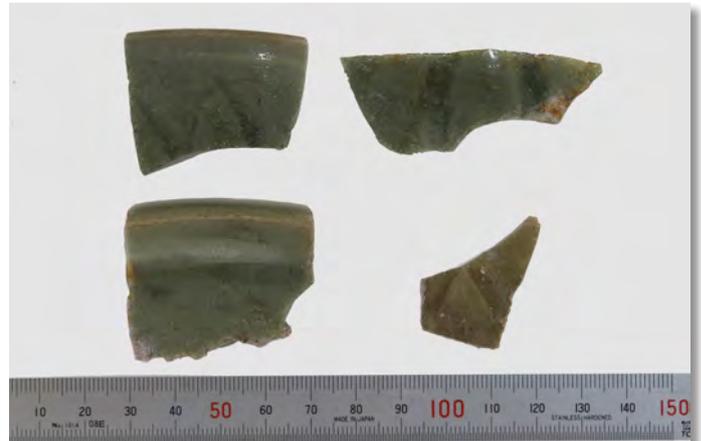
（佐藤公保）



西側調査区のほぼ全域が堀で囲まれています。



堀跡は幅6～10m、深さ1～1.5mあります。



大南遺跡出土の青磁碗・盤

馳上遺跡は、最上川の支流である羽黒川右岸の後背湿地上に立地する集落遺跡です。今回の調査は8次調査になります。調査は農道を挟み調査区を東西に分けて行いました。

遺跡の時代は古墳から中世になります。主に平安時代の遺構・遺物が多く検出・出土しました。

主な遺構は掘立柱建物跡と堅穴住居跡です。そのほかに土坑、井戸跡、溝跡、柱穴などが検出されました。

掘立柱建物跡には、倉庫と考えられる2×2間の総柱建物跡や3×4間の側柱建物跡などが見つかっています。そのほとんどが北西に位置する河川跡付近に集中して確認されています。

このような建物跡の集中は、1～6次の調査でもみられていました。1次調査では船の停泊場所とも考えられる河川の張り出しが確認されています。

堅穴住居跡は10棟確認されており、1棟は古墳時代の遺構になりますが、その他は奈良・平安時代のものになります。

遺物はそのほとんどが東側の調査区に位置する河川跡から出土しています。一般的な土師器や須恵器の他に、皿・鞍・横櫛といった木製品や、土器に墨で文字などを書いた墨書

土器などが出土しています。また、木簡も2点出土しています。何が書かれているかは現在調査中です。その他に遺物が出土している遺構として、土坑や井戸跡、堅穴住居跡があります。

馳上遺跡では一般の集落では出土しないような墨書土器・木簡・馬具である鞍などが出土しています。さらに多くの掘立柱建物跡が検出されていることから考えると、当時の役所に関係した集落・施設であったと考えられます。1～6次の調査の中で報告・検討されてきた遺跡の評価を改めて確認できたかたちになりました。(渡辺和行)



多くの遺構が検出された西側の調査区。遺構は調査区西側に集中して検出されました(上が北)。



土坑に一括で廃棄されたとみられる遺物



倉庫と考えられる2×2間の総柱の掘立柱建物跡

元立北遺跡は、最上川の支流である羽黒川右岸の後背湿地上に立地する古墳時代の集落遺跡です。

検出された主な遺構は、たてあなじゅうきよあと 竪穴住居跡と河川跡になります。

竪穴住居跡は2棟検出されています。その内、調査区中央から検出された1棟は炭化した木材が住居の壁側から中央に向けて倒れている様子が確認されました。火事などで焼けた住居と考えられます。大きさは7.5m × 8mで大型の住居になります。もう一棟は全体の半分ほど確認出来たもので6m × 6m程の住居と推定されます。いずれの住居にも土坑があり、その中から多くの遺物が出土しました。

焼失した住居からは須恵器のハソウが2点出土しています。この須恵器と呼ばれる焼き物は当時山形県内で焼かれていませんでした。別な場所で焼かれ、交流の中でこの地に来たものと考えられます。その他に土師器はじきの坏といしや砥石、2つの穴が開いた石製模造品、鉄滓てつさいなどが出土しました。一般的な住居と違った遺物の出土から工房などといった別の用途があった施設かもしれません。

河川跡の南部からは古墳時代の土器がまともに出て出土しています。こちらからも穴の開いた石製模造品が出土しています。石製模造品

については住居跡からも出土しており、住居跡から廃棄されたものである可能性が考えられます。

住居と河川跡の位置関係から集落としての中心は調査区の東側にあると考えられます。

(渡辺和行)



調査区の西から南に旧河道があり、その東岸に竪穴住居が検出されました（上が北）。



カマド脇の土坑から出土した土師器の坏



焼失した竪穴住居、南東にカマドがあります。

壇山古窯跡群は、川西町大字時田の JR 米坂線中郡駅の近く、虚空蔵山のすそに立地する、奈良・平安時代の須恵器窯跡です。今回発見した須恵器窯は、4基あり、SQ3～SQ6 窯跡と名付けています。

須恵器窯は、斜面につくられた登り窯で、焚口から煙突までトンネル状に一直線にのびるものです。この窯の作り方には、大きくふたつの方法があります。ひとつは、溝を掘って下半分とし、上半分の天井などは粘土で人工的に作り出すもので、半地下式の須恵器窯と呼ばれます。もうひとつの方法は、斜面地山にトンネルを掘り、窯とする方法で、地下式の須恵器窯と呼ばれます。

県内において発見される窯跡は、半地下式のものがほとんどで、これは同じ様相を示す日本海側の影響をうかがわせます。古代の山形県にあたる出羽国は、日本海側に中心地があり、須恵器窯の技術導入にも、そこからの影響が大きかったと考えられています。

今回の調査で発見された窯跡をみても、SQ3~5 の3基は、半地下式のものです。天井は崩れてなくなっていますが、掘り窪めた地下や、失敗品の捨て場からは、大量の須恵器を発見しています。

一方で SQ6 は、県内ではほとんど調査事例のない地下式の須恵器窯でした。地下式の窯跡は、太平洋側の地域に多く、その影響をうかがわせるものです。全長7m以上あり、深さは4mを超えます。最後はトンネル状に掘り抜いた天井が崩落したと考えられます。窯の床面には、崩落した天井にパックされた須恵器が大量に出土していました。

出土した須恵器は、これまでの調査成果から、すべて奈良時代終末から平安時代初頭にあたります。今後の検討によりさらに細かく

この時代を区切ることができるでしょう。

また、太平洋側からの影響をうかがわせる地下式の須恵器窯の発見は、須恵器生産を担ったであろう地域の権力者たちが、出羽国という当時の行政圏の垣根を越えた独自の技術交流圏を持っていたことをうかがわせます。それはまた、地域の権力者たちが、国家権力の完全なコントロール下にはなかったことを意味するのではないのでしょうか。

今回の調査は、須恵器の年代判断の指標とするだけでなく、複雑な東北の地域権力を考察する上でも重要な成果といえるでしょう。

(天本昌希)



SQ6 須恵器窯調査風景。人物の足元が床面、スコップで指しているのが煙突部分になります。

八幡西遺跡は川西町北端の郊外（大字西大塚）に位置しています。遺跡の範囲は現在の「八幡西」区域（字因幡一・八幡三）にほぼ重なりますが、発掘した7000㎡は既存集落の真下に当たります。調査の結果、その前身と考えられる近世（江戸）から近代（戦前）にかけての集落が見つかりました。

集落は屋敷地と水田・畑、墓などで構成されています。屋敷地は溝で方形に圍繞された区画が複数隣接し、それぞれ内部に数棟の掘立柱建物と井戸や水場（木組み・石組み）を伴います。中でもSB243掘立柱建物は東西14.1m・南北6.2mと大型で、西面ははっき

りしないものの、東西北面には廂を持ちます。柱の配置から復原される間取りは米沢藩の民家（高持百姓クラス）の特徴に一致します。

耕地は屋敷地に隣接し、低地に水田が、微高地には畑が営まれ、地形に基づく土地の利用がうかがわれます。

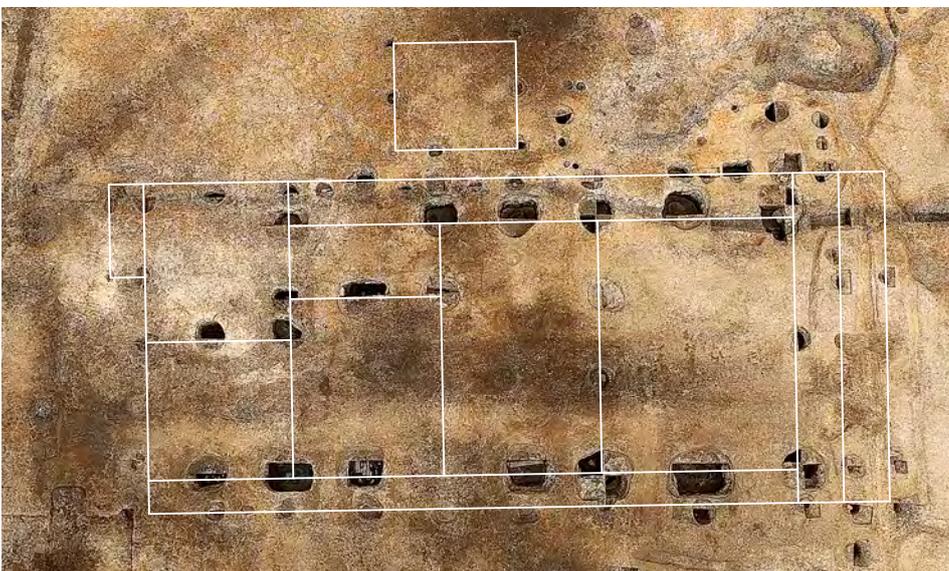
このほか、藍色の染料が付着した桶が埋設された土坑と水場、低地に設置された水車から成る空間もあり、染色に従事した場の可能性があります。また、掘立柱建物と作業小屋と考えられる竪穴建物が併存する敷地もあり、農業以外の手工業生産も集落の生業だったのかもかもしれません。

八幡西遺跡の近世・近代集落のあり方は、現代（戦後）の「八幡西」集落に継承され、地域社会の基盤を成すものも少なくないと考えられます。来年度の2次調査では実態の解明にまた一步近づけるものと期待されます。

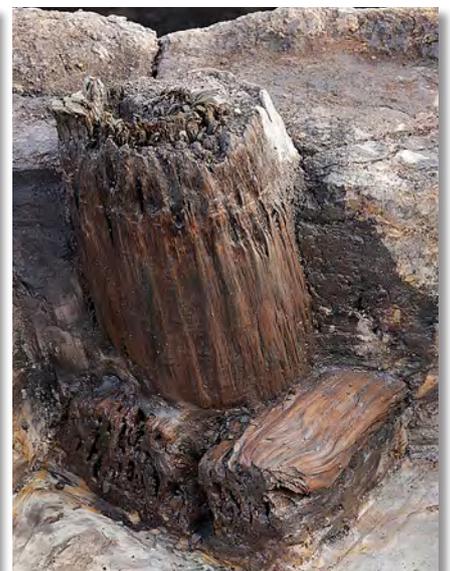
また、遺跡からは古代（奈良平安）の井戸や溝なども確認され、土師器・須恵器のほか、竈形土製品や風字硯といった仏教関連遺物も出土しました。こちらも今後の展開に期待が高まります。
(菊池玄輝)



藍色の染料が付着した桶 (SK456)



大型掘立柱建物 (SB243)



柱根と礎板 (SB243)

上竹野遺跡は、最上川に合流する銅山川左岸の段丘上に立地します。遺跡の主な時代は、縄文時代の終わり頃から弥生時代です。

今年度は第2次調査となり、国道458号線の東側が遺跡範囲に含まれることとなり、この部分を含めた調査区を設定しています。

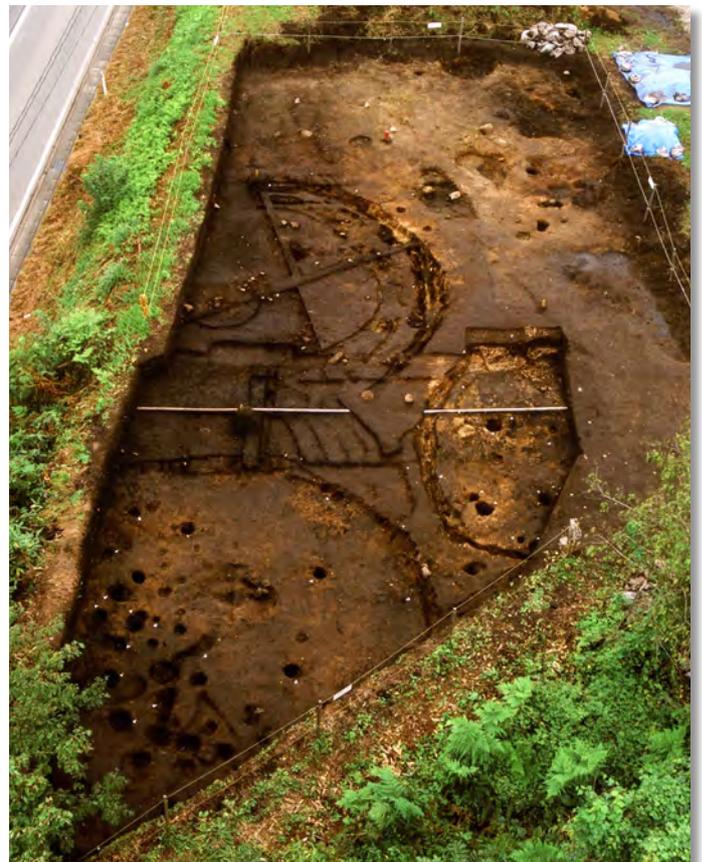
主な遺構ですが、弥生時代を中心とする竪穴住居跡が6棟、捨て場、墓地と考えられる埋設土器群、土坑などがあります。弥生時代のST202竪穴住居跡は直径約9mで、遺跡内で最も大きい住居です。大量の土器や石器が捨てられていました。2カ所の炉跡や複数の周溝が確認されており、少なくとも5回の建て替えや拡張が行われ、次第に住居の規模が大きくなっていったものと思われます。

国道東側の5区では、埋設土器が9カ所確認されました。大形の壺や甕を据えて上に鉢あわせぐちで蓋をしています。これらは弥生時代初め頃の合口土器棺で、遺体を埋葬した後に骨を取り出し納めた再葬墓と考えられます。また、土坑の中に土器や玉類を副葬品として埋納したと思われる土坑墓も見られます。

出土遺物は弥生時代の土器や石器が中心で、赤彩された土器も認められます。また、体部全体に刺突文様を施した土偶や石剣など祭

りや儀式用の道具も出土しています。

調査の結果、弥生時代の住居が集中する居住域、土坑や柱穴が集中する区域、生活で不要なものを廃棄した捨て場、埋設土器や土坑で構成される墓地など、県内では不明な点が多かった弥生時代前期から中期初め頃のムラの構成が明らかになりました。（菅原哲文）



弥生時代の住居跡が重複して確認されました。手前からST801・中央右がST808・奥がST202です。



再葬墓と考えられる合口土器棺です。大形の壺の上に鉢を逆さにして蓋をしています。



土坑の中の平らな石の上から土偶が出土しました。意図的に埋められたと考えられます。

山形の遺跡と日本・世界の歴史

年代	時代	県内の主な遺跡		山形の歴史	日本の歴史	世界の歴史	
BC30000年	旧石器時代	●:28年度発表遺跡(主要な時代を示します)		山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人	
BC11000年	縄文時代	章創期	日向洞窟 (高島町) 火箱岩洞窟 (高島町) 大立洞窟 (高島町)	隆起線土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める	弓矢がつかわれた 土器づくりがはじまる	農耕牧畜が起る	
		早期	にひやく寺 (山形市) 北原4 (村山市)	いるかい (尾花沢市) 坂ノ上 (山形市)	堅穴住居による小集落が形成される	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる	トルコ・世界最古の都市 チャタル・ヒュック成立(約6000年)
		前期	高瀬山 (寒河江市) 押出 (高島町)	小林A (東根市) 吹浦 (遊佐町)	漆を使って文様を描いた土器がつけられる	磨石・石皿・凹石が多くなる	とうもろこし栽培のはじまり メキシコ(約5000年)
		中期	西ノ前 (舟形町) 小反 (鮭川村) 空沢 (長井市) 高瀬山 (寒河江市) 羽黒神社西 (村山市)	中川原C (新庄市) 西海湖 (村山市) 西向 (鶴岡市) 熊ノ前 (山形市) 山居 (西川町)	計画的な大集落があらわれる	関東地方に貝塚があらわれる 三内丸山遺跡が繁栄する	
		後期	北原2 (村山市) 高瀬山 (寒河江市) 川口 (村山市)	小山崎 (遊佐町) かつば (最上町) 砂子田 (天童市)	堅穴住居に複式炉が作られる	環状集落が発達する	
		晚期	宮の前 (村山市) 作野 (村山市) 森の原 (村山市)	下叶水 (小国町) 釜淵C (真室川町) 北柳1 (山形市)	集落が減少する	配石遺構がさかんに作られる	楔形文字が使われる(約3500年) ピラミッドが作られる(約2650年) インダス文明がおこる(約2500年) 殷王朝がおこる(約1600年) 孔子生誕(552年) 仏教成立(450年) アレクサンダー大王生誕(356年) 秦王朝がおこる(221年)
AD1年 300年	弥生時代	● 上竹野 (大蔵村) 百刈田 (南陽市)	生石2 (酒田市) 庚壇 (南陽市)	米づくりがはじまる 機織りはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現(230年頃) 環濠集落の発展 前方後円墳がつけられる 大和の土師器が全国に広まる	光武帝が匈奴に金印を授ける(57年) ポンペイが噴火により埋没(79年) 魏呉蜀三國時代(220年)	
	古墳時代	畑田 (鶴岡市) 玉作2 (米沢市) 鎌倉上 (米沢市) ● 元立北 (山形市) 今塚 (天童市) 蔵増宮田 (天童市) 板橋2 (天童市) 西沼田 (天童市) 矢馳A (鶴岡市) 物見台 (中山町) 南原 (高島町) 廻り屋 (白鷹町)	比丘尼平 (米沢市) 天神森古墳 (川西町) 稲荷森古墳 (南陽市) 寶塚古墳 (米沢市) 菅沢古墳 (山形市) 大之越古墳 (山形市) お花山古墳群 (山形市) 服部・藤治屋敷 (山形市) 梅ノ木 (山形市) 太夫小屋2・3 (川西町) 百刈田 (南陽市) 中里 (米沢市)	鉄製農具がつかわれた 県内最大の前方後円墳がつけられる 東北最大の円墳がつけられる 小規模な古墳群がつけられる 大規模な集落があらわれる 蜂子皇子、羽黒山・月山を開山(590年)	須恵器がつけられた ササン朝ペルシア全盛(531年) ムハンマド生誕(570年) 隋王朝がおこる(581年)		
600年	飛鳥時代	北目古墳 (高島町) 安久津古墳群 (高島町)	羽山古墳 (高島町) 長手古墳 (米沢市)	湯殿山開山(605) 出羽郡が建郡される(708年)	聖徳太子摂政となる(593年) 十七条憲法を制定(604年)	マヤ文明絶頂期(600年) 唐王朝がおこる(618年)	
700年	奈良時代	二色根古墳 (南陽市) 不動木 (河北町)	牛森古墳 (米沢市) 木和田窯 (米沢市)	出羽郡が設けられる(709年) 出羽国が建国される(712年)	平城京に都をうつす(710年) 東大寺の大仏開眼(752年) 長岡京に都をうつす(784年)	李白・杜甫・楊貴妃らが活躍	
800年	平安時代	● 壇山古窯跡群 (川西町) 北原2 (村山市) 清水 (村山市) ● 馳上 (米沢市) ● 八幡西元宿北 (川西町) 八反 (東根市) 蟬田 (村山市) 松橋 (村山市) 沼袋 (東根市) 経塚森 (村山市) 田向2 (村山市) 沼田2 (村山市) 南口A (庄内町) 山田 (鶴岡市) 川前2 (山形市・中山町) 小松原窯 (山形市)	城輪柵 (酒田市) 俵田 (酒田市) 八森 (酒田市) 泉森窯 (酒田市) 山海窯跡群 (酒田市) 大坪 (遊佐町) 下長橋 (遊佐町) 玉作2 (鶴岡市) 的場 (天童市) 蔵増押切 (天童市) 堀端・畑ノ上 (長井市) 四ツ塚 (河北町) 三条 (寒河江市) 落衣長者屋敷 (寒河江市) 今塚 (山形市) 三本木窯 (山形市)	出羽郡が秋田村高清水岡に移転する(733年) 慈恩寺建立(746年) 出羽国大地震(850年) 立石寺が開山(860年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年) 荘園の成立	長岡京に都をうつす(794年) 平安京に都をうつす(794年) 坂上田村麻呂が蝦夷を平定 続日本紀ができる(797年) 胆沢城をつくる(802年) 将門・純友の乱(935-939年) 藤原氏の全盛(1016年) 前九年合戦はじまる(1051年) 後三年合戦はじまる(1083年) 中尊寺建立(1105年)	カール大帝戴冠(800年) アラビアンナイト成立 高麗王朝がおこる(918年) 宋王朝がおこる(960年) 神聖ローマ帝国の成立(962年) 十字軍の時代始まる(1096年)	
1200年	鎌倉時代	八幡一 (川西町) 大橋 (遊佐町) 沼袋 (東根市) 執行坂窯 (鶴岡市)	長表 (山形市) 永源寺 (天童市) 七日台 (鶴岡市) 蓮華寺 (鶴岡市)	斯波兼頼が山形へ入部(1356年)	鎌倉に幕府をひらく(1192年) 南北朝の動乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年)	モンゴル帝国樹立(1206年) マグナカルタ制定(1215年) ダンテが活躍 百年戦争が始まる(1337年) 明王朝がおこる(1368年)	
1400年	室町時代	● 柳沢A (鶴岡市) 大南 (米沢市) 小田島城 (東根市) 八反 (東根市)	高松II (寒河江市) 蔵増押切 (天童市) 安中坊 (西川町) 館山北館 (米沢市)	最上義光が最上家第11代当主となる(1570年)	種子島に鉄砲伝来(1543年) 織田信長安土城築城(1576年)	ルネサンス全盛 マゼラン世界一周(1522年) ガリレオが活躍(1564年)	
1500年	安土桃山時代	出張坂城 (鶴岡市) 木の下館 (鶴岡市) 山形城三の丸 (山形市) 稲荷山館 (米沢市)	大宝寺城 (鶴岡市) 白鳥城 (村山市) 米沢城 (米沢市) 亀ヶ崎城 (酒田市)	義光の娘・駒姫処刑される(1595年) 出羽合戦(長谷堂合戦1600年)	豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年)	東インド会社設立(1602年)	
1600年	江戸時代	● 新庄城 (新庄市) ● 山形城 (山形市) ● 羽州街道 (上山市) ● 洪江 (山形市) ● 八幡西 (川西町)	鶴ヶ岡城 (鶴岡市) 三条 (寒河江市) 南台 (長井市) 飛泉寺跡 (小国町) 坂ノ上 (山形市)	最上義光没する(1614年) 最上氏改易(1622年) 上杉鷹山、米沢藩藩主に(1767年)	徳川家康江戸に幕府をひらく(1603年)	清王朝がおこる(1636年) アメリカ独立(1776年) フランス革命(1789年) ナポレオン、フランス皇帝に即位(1804年) リンカーンが活躍(1861年)	

